

平成 30 年度 第 4 回 学校運営協議会記録

		学校名	男鹿市立美里小学校
開催日時	平成 30 年 12 月 21 日 (金) 15 時 00 分～16 時 30 分		
協議内容 委員発言内容 等	<p><会長あいさつ></p> <p>E 委員：先月下旬、男鹿のナマハゲがユネスコ文化遺産登録され、今、全国で話題になっている。私にも県外からメールがきている。マスコミでも取り上げられ、野石地区には TBS や共同通信からの取材の連絡が入っている。ナマハゲは昭和 53 年に重要無形文化財に指定された。東京の大田区に鶴木という地区があり、若美にも鶴木地区がある。平成元年には全国鶴木祭りが開催され、ナマハゲを是非出してほしいという話があり、若い男性を中心に交流していた。今年はこの祭りが 30 周年を迎えた。当時は若美の小学校の子どもたちに東京都庁を見せたいから連れてきて欲しいという話もあり、子どもたちも交流していた。日本海中部地震のときは、野石の「かんぼの里」で交流するというので、東京からも来てもらっていた。体育祭や日本海メロンマラソンにも鶴木商店街連合会の方々にきてもらっていた。この度のユネスコ登録で、伝統行事のナマハゲが途切れることなく伝承していってほしいと思っている。</p> <p>来週から冬休みになるが、冬休み中は子どもたちが地域で一回りも二回りも大きくなって、学校に行けるように、地域で見守ってほしいと思っている。</p> <p><いのちの教育あったかエリア事業></p> <p>○第 1 回潟西中学区道徳教育拡大連絡協議会</p> <p>校 長：委員で参加した方から内容について皆さんに伝えてほしい。</p> <p>E 委員：小・中学校の連携がスムーズに行っている。会議の中では、地域にどう浸透させていけばよいかについて話が出た。美里小のコミュニティ・スクールは男鹿市の中でも進んでいると思っている。先生たちや子どもたちも協力している雰囲気で行っている。ただ、地域に浸透させるためにも、学校の中だけでなく、学校が外に出て行って浸透させていけばいいという意見もあった。</p> <p>C 委員：少人数の学校の中で、連携ができていいのはいいことだと思っている。地域との連携で先生たちも大変ではないかと思うが、その分、子どもたちは成長している。やることを精査しながら、あまり負担にならないようにやっていけばいいのではないか。</p> <p>○道徳ゲストティーチャー</p> <p>校 長：今年度は予算もついて地域の方々から各学年の道徳の授業に入ってもらった。来年は予算は付かないが是非続けてほしい。</p> <p>C 委員：道徳のゲストティーチャーになってみたが、子どもたちは興味をもって話を聞いてくれた。日本海中部地震や当時の小学生の作文、防災の紙しばいの読み聞かせから、命を大事にすることの意見を言ってもらったが、全員が発表してくれた。</p>		

協議内容
委員発言内容
等

どの子どもも的を射た発表で関している。普段の話を聞く態度や先生の教えがとてもよいと感じた。

○朝日新聞記事より

校長：12月上旬の朝日新聞に、男鹿水族館にサツマイモを届けたという記事が掲載されていた。これは、他の学校の先生から教えていただいたことで、美里小学校の取組を知っていただいているということで嬉しくなった。ただ届けたというだけでなく、届けるに至るまでの過程を記事にいただいている。

B委員：私のところの男鹿梨も少し届けている。

A委員：そもそもどうやってこの計画ができたのか。

校長：昨年度末JAさんの方から、男鹿水族館が学校との連携を望んでいてサツマイモも食べるという話を聞いていた。今回の事業の中で、子どもたちの目標の一つにサツマイモを育て、その命をホッキョクグマの豪太に届けようという話にまとまっていった。

教頭：ホッキョクグマは雑食なので、甘い物も食べる。そのため、堅いサツマイモでなく、ふかした甘いサツマイモを好んでいる。男鹿梨も同じである。

○「いのちの教育あったかエリア事業」質問紙調査結果

校長：学校運営協議会の皆様や保護者、子どもたちにアンケートを2回実施して、その結果をまとめてみた。

教頭：子どもたちの結果を見ると、すべての項目で、良い傾向の結果が出ている。これは、この事業の成果だといってよい。地域の行事に進んで参加しているという項目は上がってはいるものの、全体として低い数字であった。

校長：保護者については、あまり変化はなかったが、子どもたちについては良い結果が見られて良かった。2年生と5年生への調査だったが、5年生より2年生の意識の変化が顕著だった。

○今後の予定

- ・第2回潟西中学校区道徳教育拡大連絡協議会
- ・秋田県総合教育センター実践発表会
- ・成果普及パンフレット配布

校長：第2回目の協議会もあるので、この会の中から参加して欲しい。内容を理解するためにも前回は違う方でもいい。

県総合教育センターでの発表は、教頭が行うことになっている。この機会に美里小学校の取組について、全県の教職員に知ってもらうことにしている。

成果普及パンフレットは、今潟西中学校と一緒に作成している。2月は3月に全戸配付する予定である。

4 学校教育活動について（保護者アンケート）

校長：全校の保護者にお願いしたアンケートの結果についてグラフでまとめている。昨年度のグラフも準備したので比較することもできる。アンケートの中で「全くそう思わない」と回答した保護者もいるが、ご家庭でも悩んでいるはずだ。このアンケートは記名式でお願いしているので、どの子どもの保護者が答えているのかがわかるため、担任にも見てもらい、指導の参考にしてもらっている。「あまりそう思わない」という回答が少なくなっているが、保護者も意識して学校と共に教育活動を進めていくように意識しているのではないかと思う。記述に関しては、子ども同士のトラブルやスクールバス

協議内容
委員発言内容
等

について、学習内容が多いなどがあつた。児童クラブのトラブルで保護者に連絡が無かつた件については、教頭が児童クラブにいて、教頭にも情報をいれてもらうように連絡体制を確認してきた。

A 委員：昨年度より数値が上がってきているのは、傾向としてはいいのではないか。

E 委員：いじめについてだが、いじめが0と回答した都道府県は、再調査した所もある。

A 委員：いじめについては、基準が難しいと思う。やっている本人が気が付いていない場合もある。

G 委員：子どもたちの様子を見てみると、子ども同士折り合いを付けながら解決している。

E 委員：コミュニティ・スクールの地域へのPRについてだが、学校報に地域のボランティア的なものも載せてもらえれば、学校報を見ることも増えるのではないか。地域の人をもっと登場するような方向にしていけばいいのではないか。

G 委員：地域行事はいい刺激になっている。町内会で地域行事をやってくれるが、子ども会の出席率が悪い。子ども向けにやってくれているので、もっと参加しないといけないと思う。美里小は、いじめがあると人数も少ないし逃げ場がない。子どもたち同士で解決していったほしいとも思う。

校 長：大人と子どもの構図だけでいじめを解決するのではなく、子ども同士でいじめを解決できる力も付けていかなければならないと思っている。

<情報交換>

B 委員：児童クラブでは、保育会で携帯を預けていると思う。児童クラブから連絡をして対応できると思う。

A 委員：コミュニティ・スクールのPRについては、男鹿市広報で、コミュニティ・スクール通信ということで10月号あたりから各学校の取組を紹介している。美里小は第1回目であつた。子どもたちに他の学校は、こうのようになっているという紹介をして、積極的な発言を子どもから出させて、自主的にやってみるようにしていけばどうか。肥満の子どもを改善しようとする試みをあつてもよい。

C 委員：児童クラブでは、学校ではやっていけないことが、このくらいはいいと思って過ごしている場合もある。保護者が迎えに来たときに、怪我などがなくても児童クラブの先生と話して引き渡してやるとよい。

D 委員：行事で家にきたときや、学習発表会などでしか子どもと接することがない。少ない人数でも切磋琢磨しながら頑張っているという印象をもっている。

F 委員：子どもたちは健康面についてあまり気にしていない。食べるものにあまり関心がないように思う。

校 長：肥満や健康面については、次回話題にしたい。